中原区活動報告

課題	・令和5、6年度の取組みにより、地域のネットワーク強化と支援機関同士の役割を知ることを通して、地域課題に働きかけを行っていく必要が見えた。 複数年単位での連続性ある取り組みとする。「知ろう、考えよう、やってみよう」をキーワードに設定し複数年期計画とした。 ・障害児から障害者への移行期およびその後の支援についての課題が見えた。教育分野と障害福祉分野の相互理解の促進を目的に、前年度に引き続き設置した。支援方法、制度、社会資源等について理解を深め合う。　→【ワーキング】（「学校de移行ワーキング」）
取組	【定例会・事業所連絡会】 「令和6年度報告および7年度の取組みついて」「意見交換会・交流会」（グループワーク） 「障害サービスと介護保険サービスの違いについて」の講義＋グループワーク 「地域資源を知る」をテーマとして、井田地域の施設説明・見学会　（中央療育センター、桜の風もみの木、桜の丘） 「専門機関を知る」をテーマとして、中部リハビリテーションセンター機能の講義・見学会 「成年後見制度・区あんしんセンター金銭管理について」の講義＋グループワーク 【ワーキング】（～令和８年３月） 会議　令和7年12月までに6回開催 座談会（委員以外の教員も参加）1回開催　令和7年7月30日「川崎市相談支援体制及び中原支援学校内の相談体制について」の講義＋グループワーク
成果、評価	【定例会・事業所連絡会】 ・前年度までに挙がった地域の意見をもとに、「知ろう、考えよう、やってみよう」の「知ろう」を今年度は取り組んだ。地域資源、専門機関、制度の活用方法等の理解を深め、支援力向上につながった。 ・地域の意見から複数年テーマを設定したことで取り組む方向が明確になり、企画・検討がブレることなく実施することができた。 ・支援者のネットワークを広げるため定例会と相談支援事業所連絡会を合同開催にしたことによって、参加者が集まりやすく、また多機関・多職種が知り合う機会と連携強化につながった。 【ワーキング】 ・いわゆる児童期から成人期の移行期支援の課題解決のため、中原支援学校に協力していただき、引き続き取り組んだ。教育分野と障害福祉分野の相互理解の促進と連携の重要性の再確認等につながり、これらにより、移行期の当事者およびご家族の支援の強化につながった。
令和８年に向けて	【定例会・事業所連絡会】 ・複数年計画「知ろう、考えよう、やってみよう」の中の「考えよう」をメインに活動を展開していく。 ・令和8年2月24日に第1回定例会・相談支援事業所連絡会を開催。①令和7年度活動報告、②①から見えてきた地域の困りごとを出席者と共有し、今年度の取組みを一緒に考える機会を設ける。→具体的な今年度の取り組み内容を決める。 ・指定特定相談支援事業所がより参加しやすい環境を設定することにより、事業所同士のネットワーク構築を支えることができるため、高津区と宮前区と連携して「3区合同による相談支援事業所連絡会」開催を検討する。 ・相談支援専門員や各種事業所の持つ地域の困りごとが表面化されやすいように、今年度も働きかけを行っていく。 【ワーキング】（～令和８年３月） ・1月28日 座談会実施　「計画相談支援について」の講義＋グループワーク ・2月 会議　会議7回と座談会2回の振返りを行い、課題解決の達成度を確認し、今後の取組みを検討する。